



幼稚園だより 9月号

令和6年8月30日

中央区立豊海幼稚園 03 (3533) 0725

HP <http://www.chuo-kyo.ed.jp/~toyomi-kg/>

教育目標

- げんきな子
- やさしい子
- がんばれる子

<遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽！>

園長 山口 晃司

長かった夏休みが終り、第2学期が始まります。猛暑の中、元気に鳴いていたセミの声から、いつしかズムシやコオロギなどの虫の声が朝晩に聞こえるようになってきました。まだまだ残暑が厳しいですが、季節は確実に変化していることを実感します。さて、園では、夏休みが始まった7月下旬に、「日比谷公園での夜の自然観察会」8月下旬に「藍の生葉染めワークショップ」を行いました。ご参加いただいたご家族の皆様ありがとうございました。セミの幼虫が木に登って動いている様子や、ちょうど殻から出てきて羽化が始まったところ等、生命の営みを観察することができました。今年初めての試みで行った「藍の生葉染め」は、薬品も火も使うことなく、生葉と塩をよく揉んだ中に、布されを入れることで染められる染色で、幼児にとって安全でしかも文化的実践につながる楽しい活動になったと思います。自然が少ないと言われる東京でも、ちょっとした工夫で、身近な場所で自然体験ができます。これらの体験は、幼稚園教育要領に示された「幼児期の終りまでに育ってほしい姿」の「自然とのかかわり・生命尊重」につながり、小学校以降の「理科・生活科」の学習にも関連しています。さらに、本園の園内研究のテーマである「身近な自然との関わり「みて！どうして？わかった！」～子供の気付き・発見を支える援助を探る～」を具現化していく活動につながっていると考えます。2学期も自然遊びや栽培活動を様々に工夫していきます。そして11月28日（木）は、園内研究の成果を中央区教育委員会研究指定園として、公開保育・研究発表会を行います。保護者の皆様にも様々にご協力いただくことがあると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

話は変わりますが、夏休み中、私を含め教職員は、様々な研究会・研修会に参加しました。私は、全国公立幼稚園・こども園研究協議会北海道大会、全国幼児教育研究協会愛知大会等々に参加しました。これらの研究会で、文部科学省の講話、指導講評を伺いました。特に強調されていたのが、「幼稚園、認定子ども園、保育所では小学校以降の学びを見据えた、幼児教育・保育の展開が求められている。それは、小学校への順応を指すのではなく、幼児期の教育は、遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期である。小学校においては、その芽生えを更に伸ばしていくことが重要である。そこで、幼稚園は、幼児期の教育の特性を踏まえ、子供たちに遊びを通して資質・能力を育むこと、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤になっていることを、幼稚園の教職員がしっかり認識し保育を充実させていく。さらに、幼児期の遊びを通しての学びを幼保小で相互理解を推進していくこと、広く社会にアピールすることが重要である。幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料として『遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽』の動画コンテンツを配信しているので活用してほしい」とのことでした。Youtubeで配信していますのでご覧いただけたらと思います。子供たちの学びの芽をしっかり支え充実した2学期にしていきたいと思います。

<各学年のねらいと主な活動>

年少組	年中組	年長組
○幼稚園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分なりに行おうとする。 ○自分のやりたいことや興味をもったことを行いながら遊ぶことを楽しむ。 ○先生や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。 <主な活動> ・敬老の日の葉書作り ・色水遊び ・かけっこ ・先生や友達と様々な動きを楽しめるリズム ・歌「とんぼのめがね」	○幼稚園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分から行う。 ○久しぶりの登園を喜び、友達と関わりながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○友達と一緒に走ったり踊ったりし、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 <主な活動> ・敬老の日の葉書作り ・かけっこ ・友達と一緒にリズムを感じながら踊る楽しさを味わえるリズム ・歌「たのしいね」	○園生活の見通しをもち、自分たちでできることに進んで取り組む。 ○自分の考えを相手に伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、一緒に遊びを進めることを楽しむ。 ○学級や学年の友達と一緒に思いきり体を動かすことの快さを感じ、繰り返し取り組もうとする。 <主な活動> ・敬老の日の葉書作り ・周回リレー ・歌「地球はみんなのものなんだ」など

